

## 世界の漢字研究

# ベトナムの儒教の漢字入門書研究

阮 俊 強

「君子の道は、辟（たとへば遠きに行くは必ず邇（ちか）き自（よ）りするが如く、辟へば高きに登るは必ず卑（ひく）き自りするが如し。』『中庸』「君子之道辟如行遠必自邇辟如登高子必自卑（辟譬同）」

されることも中国語とベトナム語のバイリンガル及び漢字と字喃との並行の教育方法が授業の中で普通に行われていたことを示している。

キーワード 入門書 漢字 儒教 ベトナム 科挙

要約 本論文はベトナムの科挙制度（＝科挙（以下、このように表記））（1075-1919）に直接関係していた人々の記録を調査するという

研究方法をとっている。彼らはいわゆる「インサイダー」すなわち純粹な伝統的科挙制度の学者と、「過渡期の学者」（すなわち半伝統的であり半近代的な学者）つまり、科挙制度の中で活動し始めたが、時代の変化により現代フランスのシステムに転換した学者のどちらかである。本論文は発見された「インサイダー」と「過渡期の学者」の記録に基づき、ベトナムの儒教の入門書すなわち13歳から15歳とその年下の子供を教えるために使用された基礎的な教科書の基本的なシステムを再構築するものである。このような資料はあまり多くないが、著書の起源と編纂方法の点においては比較的に多様である。多くの資料は簡単に暗記できるように、韻を踏んで書かれている。チュノムに翻訳

## 1. はじめに

ベトナムの科挙は1075年にリ王朝（1009-1225）の下での最初の試験で始まり、1919年にグエン王朝（1802-1945）の下で終了した。現存している中国語の文献によると、ベトナム史上、合計186の大都市の合格者があり、1895人の大都市の合格者が名声をあげた。19世紀後半にヨーロッパに影響を受けた近代教育が採用される前、科挙はベトナム王朝の知識人や学者兼公務員を生み出す大切なものだった。その重要性から、科挙はベトナム国内外の研究者を魅了する魅力的な話題である。科挙研究の分野は、試験制度の構造、合格者リスト、首都の高等教育などの分野で質の高い研究を生み出してきた。しかし、まだしかるべき注目を受けていない分野や課題がいくつか残っている。これには、(i) 初等教育、(ii) 教材・資料、(iii) 試験用の小論文、

(iv) 私立学校の活動 が含まれる。本稿ではベトナムの儒教の入門書の基本的なシステムに関する理解を深めるために、特に(i)と(ii)を取り巻く課題に焦点を当てている。

王朝時代の初等教育に関する中国の研究は、現存している原典を系統立てている分野と体系的な研究の両方の分野で、最近、大きな成果を生み出してきている。入門書のコレクションに関しては喬桑と宋洪、齊蒙、張志公による重要な出版物と徐梓と王雪梅による三部作がある。中国における系統的な研究と原典を系統立てること、前近代的な中国の初等教育の全体像をかなり完全な形に作り上げることができた。

日本の場合、1716年から1912年にかけて日本で印刷された李無未の出版物は、総計60冊にもなり、ページ数は合計約16000ページ、印刷されている孔子の原典は13冊にもわたっている。

対照的に、ベトナムは約1000年の科挙の歴史があるが、中国語の主要な原典を使用して、一般的に近代的な教育システム、特に初等教育を分析するベトナムの出版物は全くない。今のところ、近代前の初等教育に関するほとんどのベトナムの出版物は「指南玉音解義」、「大南国語」、「日用常談」のようなバイリンガルの中国語の辞書に関係している。ハム・ヴァン・ホアイ(II)ベトナム国家大学ハノイ校人文社会科学大会准教授)は初期の出版に基づく初等教育で使用される漢字の教科書を研究するパイオニアだった。1900年代後半に彼はこの話題の概要に関する2つの論文を発表したが、それ以来、彼はそれ以上、または詳細について何も発表していない。いずれにしても、ハム氏はベトナム起源のこれらの漢字の教科書のいくつかの共通の違いを特定

した。すなわち、中程度の長さの韻と韻律(II歩格)の強勢、国家精神の主張、学問上の傾向が同時に起こることで表れる影響、および漢字と喃(字)(ベトナムの文字) スクリプトの両方を組み合わせる教えたてである。

上記の出版物を除いて、ベトナムの初等教育のテキストに関する研究の大半は、初期の出版を引用していない。多くの場合、以前の学者の意見は、次に探求される様々な間違いや誤解につながる思慮分別なしに繰り返される。

## 2. ズオン・クアン・ハム(II)ベトナムの文学研究者・教育者)及び他の最近の学者による儒教の入門書の基本的な学説

「ベトナム文学の本質的な歴史」は1967年に出版された有名な原文の出版物で、著者ズオン・クアン・ハムは中国の入門書を2つのグループに分けている。第1グループは「南部(すなわちベトナム語)の原作者」で、5つのテキストが含まれていた。「一千文字」「三千文字」「五千文字」「初学問津」で、270の四言の詩行と278の五言の詩行を含んでいる。

第2グループ「中国の原作者のテキスト」には、20章の散文を含む「明心實観鑑」「明道家訓」「三字経」の3つが含まれていた。

ハム・ヴァン・ホアイは中国起源の多くの入門書がベトナムに輸入され、ベトナムに影響を与えた環境の中で、18世紀と19世紀の間にベトナムの著者たちは数多くの中国語の入門書の編集と編纂を行ったと

主張している。何世紀にもわたって、「中国に匹敵する文学の文化を持つ独立したベトナムを建設したいという願望の自然な結果」だった。

ベトナム文学を本質的な歴史の初期の出版と結びつけて考えると、ズオンの学者としての信頼性は、「書名：ベトナム文化の本質的な「歴史」という本を出版することにつながった。そしてこの最初の作品はグエン・Q・タンなどの研究者によって上記の2つの類型を広く引用することにつながった。グエン・ク・タン (Nguyễn Q. Thảng)、『グエン・テー・ロン (Nguyễn Thé Long)』、チャン・バー・チー (Trần Bá Chí)、『グエン・ティ・チャン・クイン (Nguyễn Thi Chàn Quỳnh)』、テー・アイン (Thé Anh)、『グエン・ロン・リー (Nguyễn Cong Lý)』、陳文：などのここに列挙されているすべての研究者は、他の多くの現代研究者とともに、1919年の科挙の終了後に生まれた。彼らは個人的にこの制度に参加しなかったため、これらの研究者はベトナムの伝統的な教育に関する文書では、証拠のない原典に依存したり、ベトナムのローマ字で書かれた文字の二次的な出典を引用するだけである。そのため、説得力のある結論を導き出すことはむずかしい。

グエン・ゴック・クインやファン・トロン・バウの専門書のような、近代的なベトナム教育に関するいくつかの他の原典は、教育制度を包括的に概観することをめざしている。したがって、研究材料として中国語の本来の原典に焦点を当てていない。リ王朝の儒教教育と科挙に関する（人名）の専門書の大部分は、特に高等教育における試験制度に焦点を当てている。初期の原典を使った14の試験の小論文から選ばれた文章が含まれている。残念なことに、彼は2ページしか割り当て

ておらず、その中でズオンを引用しているので、残念な間違いをいくつか繰り返している。

ズオン・クアン・ハムを批判せずに参照したことと、中国語で書かれた原典を調べることを怠ったので、少なからず誤解を生みだした。典型的な例は、「書名」ダオを照らす家族の指示」である。ズオンによるとタイトルは「書名」ミンダオの家庭教育」である。ミンダオは有名な宋王朝の儒者である程顥である。ズオンやすべての研究者は、これが真実であるとみなした。しかし、私はそのタイトルの中国の原典がないだけでなく、同じ内容を共有するテキストも存在しないことを証明してきた。これは中国の清朝に相当する17世紀から20世紀の間に編集されたベトナム語の原典である。この原典のベトナム語の著者は、その編集された3つの方法を使用した。すなわち、古典的な原典から逐語的に引用すること、最小限の編集をして原典から意識すること、そのようにして全く新しい教材を書くことの3つの方法である。隠喩と言い換えの方法というのは、特定の原典の半分以上を構成するために中国語の原典を使用するのだが、東アジアでは非常に一般的であり、その結果独特の「東アジア」原典を生み出した。新しく教材を作成する際には、原典の約46%が採用され、著者が独自のベトナムの言語のアスペクト（動詞の相）を原典の中に作り出すことを許され、それによってベトナム語の要素を加えることで東アジアの文化的な空間が質的に向上した。

### 3. 「インサイダー（＝伝統的な時代の著者）」と「過渡期の著者（＝半ば伝統的ではあるが、半ば近代的な著者）」の客観的な見方への取り組み

本論文は、科挙を究極の目標として若い頃から儒教を学んだ経験を持ち、それを回想することでその研究経験を語ったベトナム人に関するものである。

したがって科挙の文化的背景の中で、儒教の実験の経験がなく、必ずしも科挙文化に直接参加しなかった古い世代の資料を引用した作家とは、この論文は関係ない。

この論文の中で、「インサイダー」と呼んでいる伝統的な著者は別として、19世紀に生まれて伝統的な儒教研究で育ったが、のちにフランス語の研究に転じた著者を「Transitional（過渡期）」と呼んだが、そのような人々もたくさんいた。（Tran Da）の言葉を使うと、彼らは「古典とフランス文学の両方を研究すること」を受け入れた。したがって彼らの文書はベトナムローマ字の原典にあるが、中国語と儒教に関する文学の資料は比較的信頼できる。

本論文の目的は、初等教育の課題をより深く掘り下げることである。したがって、インサイダー（＝伝統的な時代の学者）の見解を吟味することに綿密に注意を払うが、「過渡期の著者（＝半ば伝統的ではあるが、半ば近代的な著者）」の著者の資料も配慮している。

本論文では、従来の科挙文化の背景の中で用いられる初等教育のカリキュラムを探索するため、改良された科挙期間（1906～1918）の教

材は含まない。というのは20世紀初頭に近代西洋の学問から明らかに影響を受けているからである。この論文で探求された原典のいくつかは1906年から1918年の間に編集されたが、これらの特定の原典は改革された制度ではなく、伝統的な科挙の制度であった。

さらに以下に引用されている「インサイダー（＝伝統的な時代の著者）」による初等教育に関する文言で書かれたシナチベット語と中国語の文書は、19世紀初頭から20世紀初頭のもので、この論文の調査範囲を限定するものである。原典が不足しているため、1803年以前の初等教育の状況は具体的には説明できない。

### 4. ベトナムの儒教小学校の教科書に関する伝統的な時代の学者の意見

初等教育全般に関してハンノム（漢字和喃字＝漢字とチュノムとの混じり文）で書かれており、特に「三字経」の教授法を使用した原典に関する調査に基づいて、私は19世紀から20世紀初頭に文字で書かれた4つの原典、「欽定大南会典事例」の中の嘉隆帝、「大南実録」の中に記録されている孫壽徳行政長官と明命帝の返信、「擬述一家説法（陳仲杭著）」という題名の随筆、「南風雜誌」（*Nam Phong Tạp Chí*）で出版された文言で書かれたエッセイである「幼学」の存在を明らかにしてきた。

まず、「欽定大南会典事例」は「慣習の教授法」の中に、王室が確立されたわずか1年後の嘉隆時代の原典の中に教育に関する一節を含み、それ以来この原典はグエン時代の公式の教育標準とみなすことが

できる。

嘉隆（ザーロン）帝治世（1603年）の2年目に、皇帝は学習のルールを定めている。その学問の方法では、各地域社会の中で高潔で、教育を受けた人を選び、その人を労働から解放し、その人がその地域社会の子どもたちを教えるようになった。8歳以上の子どもは初級レベルに入学し、「孝経」や「忠経」のような教科書を引き続いて学ぶ必要がある。12歳以上の子どもは、最初に「論語」と「孟子」を読み、その後「中庸」と「大学」を読む。15歳以上の子どもは最初に「詩経」、「書経」、次に「易経」、「春秋経」を読み、その後哲学書と歴史書を読む。（原文…嘉隆二年準定教條。其法…社擇一人、有德行、文學者、免役、使以教邑中子弟。八年八歳以上入小學、次及《孝経》、《忠経》。十二歳以上、先讀《論》、《孟》、次及《庸》、《學》。十五歳以上先讀《詩》、《書》、次及《易》、《禮》、《春秋》、及子史。有敢酒博、從歌唱、告官懲治。）〔※原文がつけられているが、

翻訳は著者が英語で書いたものの日本語訳である。以下、同じ〕

第2の原典は、孫壽徳（？-？）の回想録である。彼はハノイの行政長官で、1837年に追悼され、明命帝からの返信があり、大南實録に記録された。

「近頃では学習状況は大きく乱れ、（フランス）純文学が幼いころから実践されている。秩序のある発展は続かないかもしれないが、7歳と8歳の子どもたちは最初に「中経」と「孝経」を読むように教えられ、小学校に入学するとすぐに「四書」の本を学ぶようになり、「五経」、哲学と歴史について講義を受け、科挙のために訓練されるようになることを求められる。このようにして、学生の学習状態は修正される。

明命帝は次のように答えた。「古老たちは8歳で初等学習に入り、15

歳で優れた学問をするように命じたが、これは本質的な進歩である。学生や人々の習慣は変化するが、人間のやり方や日常の出来事という不変の原理の外にあるものではない。昨年忠誠と、子としての敬愛を教えるための新しい規則が提案された。「中経」と「孝経」を教えることを求めることはこのことと関係があり、さらに、学問を始めるとき、どんな本を開いても有益であるが、読むべきではない本もあり、手本にすべき良書がどれなのか、悪いものはどちらかを見張るべきであり、これそのものが学習である。たとえ毎日「中経」と「孝経」を読んでも、もし学びたくないのであれば、何の足しになるといえるのか。朕（ちん）は人民が子としてふさわしく、年長者に愛情を持ち、献身的で信頼でき、名誉があり、羞恥心をもって、徐々に傲慢な愚かさを取り除き、優れた人としてすべての美德を持っているように、以下の人々が従う手本になりたい。そしてこのことだけが尊重されるべきである。そして今、文学を研究しているが、無秩序に進行していることを学生たちが心配しているだけでなく、新しい初等教育に従うために、身近なものすべてを急いで取り除きたいと思っているのならば、それは困難であるがゆえに奇抜なため、妨げとなる。（原文…河内布政專壽徳請安摺言…今之學者率多躐等、自少已習為文章、不知循序而進。請凡民子弟七八歳、教之先讀忠経孝経、以至小學四書、然後繼講五經子史、肄習舉業、以正士風。帝曰…古之為教、八歳入小學、十五歳入大學、固有序也。惟士習民風、一番釐正、不外乎人倫日用之常。年前教條頒示、無非教忠孝之大端、求之忠経孝経之旨、不外是矣。況人之為學、開卷有益、何書而不可讀、善可為鑒、



悪可為戒、便是學也。若不好學之人、則雖日誦忠經孝經亦何益乎。朕欲以身率下、使吾民皆知孝弟忠信節義廉耻、潛消傲慢之風、各有君子之行、同為善俗、方為貴耳。今只慮其士多躐等習為文章、遽欲使之盡棄向來之所素習、而循夫小學之序、則事驚於創見、勢阻於憚難、或有無書可讀、將至於廢學、曷若仍舊之為愈也。」

すなわち、書物が行方不明になるならば、研究は放棄されるであろう。古い規律を維持するほうが良いのではないか。

第3に、1910年に陳仲杭敬述によって丁寧に関連付けられた「三字書新彙」という本に書かれている「擬述一家説法」の始まりの部分は注目に値する。

「擬述一家説法」は6、7、8歳の子どもが読むもので、「三字経」、「三千字」という書物である。その子供たちに「孝経」「三字経」で教える。9歳の子供は「啟童説約」、「朱子家政」を読む。10歳から12歳の子どもは「幼学（漢字）新書」、「国語字類」、「陳文通考」を読むがこれは小学生レベルである。13歳から17歳の子どもは「論語」、「孟子」、「国史」、行政文書を読む。18歳から20歳の人は「春秋左伝」、他国の簡単な歴史や倫理学（道德）の本を読む。これは中等学校でレベルである。21歳から25歳の人は本文の概要、あらゆるセクションのすべての目次の目録と「詩」、「書」、「礼」、「易」の章および、仏教の經典と「道教」をより一層読む。26歳から30歳の人は「大学」、「中庸」、哲学書を広範囲に読み、それ以前の文書を復習する。これはレベルが高く高校である。これは段階を追って、進歩する。つまり学習の各段階を終える期限を設定するために、一般の学習の各段階を終える期限を設定

定するために使う読み方である。（原文…六七八歳讀…三字書、三千字、教孝經三字書。九歳讀…啟童説約、朱子家政。十至十一十二歳讀…幼学新書、国語字類、陳文通考。是為小成。十三至十七歳讀…論語正文、孟子正文、國史約編并演歌、詞翰文體、精擇藝學。十八至二十歳讀…春秋左傳、本國律例、萬國史畧、靜讀善書。是為中成。二十一至二十五歳讀…詩書禮易正文約講篇章全目、悉讀釋道經書。二十六至三十歳讀…大學正文、中庸正文、博讀諸子、溫讀前年所讀之書。是為大成。[…]此特為中材勤學循序而進者、定必成之年數耳。若夫大材好學者、及小材困學者、不可以此年限泥定。）

第4に、阮伯学（1857-1921）によってシナチベット語の文字で書かれた「幼学」に関するエッセイの最初の部分は次のようにナム・フォンによって発表されている。

「私たちの国の人々はみな、子供のころ学校に通っている。子供の頃学校に行ったかどうか村人に尋ねると（生まれつきの障がい者を除く）、

誰もが子供のころに4年間、または少なくとも2年間学校に行ったというであろう。それから、読むことができるかどうか尋ねると、あえてイエスと言わないだろう。一般的に彼らが3、4年の間に読んだ本は、「三字経」、「四字経」、「幼学」五言詩」で、「四書」と歴史的な記録で、これらの本は内容があいまいで、言葉が難しく、子供が理解できるものではない。したがって、彼らは学ぶために3、4年を費やすかもしれないが、彼らの生活に役立つ知識はない。

## 5. ベトナムの儒教の初等テキストに関する「過渡的な著者」の考察

私が特定した4人の過渡的な著者にはタン・ダー・グエン・カク・ヒエウ (Tân Đà Nguyễn Khắc Hiếu) 、ズオン・クアン・ハム (Đương Quảng Hàm) 、チャン・ファイ・リエウ (Trần Huy Liệu) 、ダン・タイ・マイ (Đặng Thai Mai) が含まれている。この名簿には、小説「*Lưu chông*」(1939) を書いたゴー・タト・トー (Ngô Tất Tố, 1894-1954) 、小説「*Bút nghiên*」(筆と硯 1942) を書いた ツー・ティエン・ホアン・シン・ザム (Chu Thiên Hoàng Minh Giám, 1913-1992) も含めることができる。

これらの小説はいずれも初等教育レベルの公務員教育を記述した文書を含んでいるが、これらの文章の歴史的価値はフィクションや文学に向かう傾向があるため、以下に引用された回顧録には匹敵しない。これらの過渡的な著者に対する記録について、上記で述べたズオン・クアン・ハムの記録とは別に、以下に紹介する。

タン・ダー・グエン・カク・ヒエウ (Tân Đà Nguyễn Khắc Hiếu, 1889-1939)

1936年に彼の人生の終わりに向かって書かれた詩「春の日に春を思い出す」(*Ngân xuân nhớ xuân*) では、タン・ダーは彼の若いころの古典的な研究の流れを次のように回想した。

遠い昔の春、私が5歳になった時

私は町の南の学校で暗記を始めた

「三字経」、「幼学五言詩」を研究した

「陽節」を読んだとき、その年がちょうど終わった

私が6歳になった遠い昔の春に

ハノイのハン・ボン通り48にある私の家で、

私は「論語」を学び、それを速読した。

私は故郷の景色を今でもまだ思い出すことができるのだが、

6年目の終わりに、タン川、ダーに行った

儒教の教科書で私は解説と歴史を学んだ

そしてアルファベットを学んだ

7歳、8歳、9歳、10歳だったころの春には

私は並立の二行連句しか書くことができなかった

私は11年目の春に詩の書き方を学んだ

私の14年目の春に私はたくさんの文学のジャンルを知った

チャン・ファイ・リエウ (Trần Huy Liệu, 1901-1969)

1901年5月11日ナム・ディン省ナム・ディン県ヴァン・カト村生まれ。ベトナムの作家、歴史家、ジャーナリスト、革命家。政治活動に関して、幼いころからベトナム国民党に入党し、その後共産主義支持に転向。8月革命の成功後、中央党歴史研究副委員長、国家副議長、歴史研究所長、国家副議長、ベトナム社会科学委員会副院長、歴史学のジャーナルの議長と編集者、ベトナム歴史科学協会の最高会長、ドイツ民主主義共和国ドイツ科学アカデミー特派員、フンボルト賞受賞

など、政府と学会の両方で高位のリーダーシップを發揮した。

回顧録によると、チャン・ファイ・リエウは彼が革命家にかわる前に科挙の準備のために行ったプロセスを説明するために、(書名「儒教を学習した時代」と題する短い文書を保存している。彼は貧しい儒教の家庭に生まれた。彼の父は試験を受け続けたが失敗した。彼の兄もまた、13歳で郷試から始まる若いころから試験を受け続け、最終的に30歳で秀才の学位を獲得したが、すぐに亡くなった。

彼の漢字研究の始まりに関して、チャン・ファイ・リエウは「三字経」から始めて、その後、「五経」、「四書」、中国史に彼の父親がとぼしたと回顧録に書いている。

「私が6歳になった年(1906年)に、父は私に勉強をさせ始め、父が私に研究させるための儀式を行った日、当時の私の村の他の子どもたちと同じように、鶏と一緒にもち米の乗せたお盆を用意し、それを主人と長老に提供した。これは何者だったのか。私の父は、私が共同ホルルの儀式の供え物があるたびに見たような、儀式用の長い礼服と帽子を身に着けて、齒を突き出した背の小さな老人の絵を指さした。…私が他のすべての子どもたちと同じように、私が研究を始めた本は「三字経」だった。「人之初・・・」といった詩を通して、社会の哲学を教えてくれた。一般的な習慣に従って、このテキストの後、歴史と漢史の2冊、すなわち、中国の歴史の勉強が始まった。しかし私を教える中で、父は「大学」まで直接とぼして、その後、「四書五経」、中国の歴史をした。試験勉強のゴールめざして、当時の学生も先生もこれらの本の意味や内容を勉強する必要はなかった。文字で書かれた

文章を完成させるためには、それぞれの句、文字、及び言及されていることを暗記するだけだった。歌と孔子の意見に反対する人や何かに意見することは許されなかった。

デン・タイ・マイ (Đặng Thai Mai, 1902-1984)

マイは有名なベトナムの研究者であり、文学評論家で、中国文学とフランス語の両方に堪能だった。彼の回顧録では、彼はゲー・アン省 タイン・ツオン 縣ルオン・ディエ村(現在のタイン・スアン村)で、父方の祖父の後見のもとで、古典的な中国語のテキストを暗記するプロセスを再び語るために、1章を書くのに精力を注いでいる。彼がテキストを学んだ順序に関していうと、彼は彼が「三字経」から始めて、その後「小学」に移り、(彼によると、彼が学んだ特定の教科書は、「孝経」と「忠経」を一緒にしたもののように述べている)、その後彼は中国史を学んだ。ベトナムの歴史に関してはレー・トゥン (Lê Tung) の「総論」だけが暗記のために割り当てられた。

## 6. 「伝統的な時代の学者」と「過渡期の著者」の見解に従ってベトナムで使用される、一般的な儒教の初等教科書における基本的なシステム

上記の「伝統的な時代の学者」と「過渡期の著者」の両方のグループの文書の内容の中で最も広範な特徴は、時間と場所、または異なる学校での教え方の習慣に応じて、学校教育と学習教材が一致しないことである。これは2つの理由が原因である可能性がある。一つは州が



「偉大な学習」レベル、すなわち試験準備のための勉強期間に一層注意を払っているということである。「小学校」レベルでは、州は地元が独自のモデルに従って組織し、運営することを許可した。2つ目はフランス人の出現後に文化や社会に変化が起ったことで、伝統的な儒教の教育機関は多かれ少なかれ変化した。

さらなる特徴は上記の文書の2つのグループの文書を通してみることができ。すなわち（嘉隆帝と明命帝の場合）、それは同時に国家教育政策管理を示している。つまり教師や地元著者チャン・トロン・ハンや学習者として実際に経験のある者阮伯学、タン・ダー、ズオン・クアン・ハム、チャン・フィ・リエフ、デン・タイ・マイ）の見解である。したがって、発見された文書はあまり豊富ではないが、それはこの時代から初等教育機関に参加する多くのクラスの見本となる。

### 学校教育の年齢

「初等」学習の開始年齢に関しては、すでに1803年に嘉隆帝は8歳から14歳までの学生が「初等」の学習に入り、15歳以上はより高いレベルに進むと定めていた。彼の後継者である明命帝も8歳から14歳の初等教育の年齢を維持し、この規則を主張した。（もっと昔の人は8歳で初等学習に入り、15歳で偉大な学習を受けるという教育を命じた）にもかかわらず、ハノイの行政長官の孫壽徳は学校教育の年齢とカリキュラムを変更するという意見だった。陳仲杭は6歳から12歳までの初等学習コースで完了するという意見を持っていた。彼は5歳で文字を習い始め、10歳から並立の2行連句を書く練習をし、11歳で詩を

書く練習をし、14歳で他の文学の形を練習した。彼らは彼の「初等」教育の期間を明確に示していないが、513歳から起ったことが理解できる。これは彼が公務員試験の準備のために「他の文学の形態を練習する」前であったといえる。彼の父が自宅で彼を教えたので、リエウは6歳で彼の研究を始めた。

国の規定によれば、グエン王朝の間、小学校の年齢は8歳から14歳で、合計で6〜7年であったことがわかっている。しかし実際には教育の組織が地域レベルで独立して発展することを許可すると、学生はしばしば5歳から6歳で、より早く学び始めた。

### 各年齢に対応する教科書

1803年に出された法令では、嘉隆帝は8歳以上の人が初等教育に入り、「孝経」「忠経」を勉強しなければならないと定めた。その後、12歳以上は「論語」に続き、「孟子」「中庸」「大学」、15歳以上は「詩経」「書経」「易経」、そして様々な哲学者や歴史を学ぶことになった。

この規則は明命帝の治世の間も変更なしで維持された。

グエンは初等教育の最初の3〜4年間に読んだテキストの中には、「三字経」「四書」歴史書が含まれていたと述べていた。

タン・ダーによると、5歳の時に彼は「三字経」、「五言詩」、中国史の概要を勉強した。6歳で「論語」、儒教の解説、歴史、ベトナム語のローマ字を勉強しはじめた。7〜10歳から彼は並立の2行連句を書く練習をした。11歳で彼は詩を書く練習をした。14歳で他の文学の形を練習した。

デン・タイ・マイは「三字経」から始めて「小学」を学んだが、おそらくそれは「孝経」と「忠経」の組み合わせだったと記録している。その後、「四書」が続いた。それは「大学」「中庸」「論語」「孟子」であり、その後中国史を学んだ。ベトナムの歴史はレー・トゥン (Le Tung) の「総論」の一般的な論文を介してのみ学んだ。

ズオン・クアン・ハムは中国語とベトナム語のテキストの作成に関するいくつかの細かい点を時々混乱させることがあったが、彼はずでに、「一千字」、「三千字」、「五千字」、「初学問津」、「幼学五言詩」、「明心寶鑑」、「明道家訓」、「三字経」のテキストが初等教育のテキストに含まれていたことを認めていた。

チャン・フィ・リエウは、彼が最初に「三字経」を学び、その後ベトナムと中国の歴史を学んだことを思い出したが、彼の父は彼に要約で教えたため、すぐに「大学」「五経」、「四書」にいった。

チャン・チョン・ハンは初等教育の体系的なカリキュラムを構築することをかなり意識していた。そこで6歳から30歳までの学生のための一般的な学習プロセスを構築した。(上記の引用)

これらの原典は完全に一致しているわけではないが、学齢とそれぞれのカリキュラムの両方に関しては、これらの一般的な方針に沿って生じる学習プロセスを想像することができる。民間試験のために勉強するように設定された5〜9歳の子どもたちは「幼学五言詩」「初学問津」「明新宝鑑」「明道家訓」「孝経」「忠経」「啟童説約」と「朱子家政」のような他の数冊のテキストと一緒に「三字経」を学ぶ。この年齢で彼らはまた、並立の2行連句と、詩を書く練習を始める。10〜

12歳から彼らは「幼學漢字新書」、「國語字類」と「陳文通考」を学ぶ。13〜15歳から彼らは「四書」とベトナムの歴史の要約を学ぶ。

この初等教育の過程を通して、生徒は書体や概念を調べるために「一千字」「三千字」「五千字」のような辞書を利用することになる。15歳以上で彼らは「大学」に切り替えてしまい、おそらく「五経」、さまざまな哲学者、歴史、文学テキスト、法律規範、道德書、仏教と道教の聖典を研究した。

この初等教育の過程で使用されたテキストは、中国の著者とベトナムの著者の半分ずつだった。中国の著者のテキストには「三字経」、「孝経」、「中経(中京)」、「朱子家政」、「明心寶鑑」、「四書」、「五経」からの抜粋が含まれている。ベトナムの著者のテキストのグループはかなりの割合を占め、かなり大規模に使用された。たとえば「啟童説約」「幼學五言詩」「幼學漢字新書」「初學問津」「明道家訓」「一千字」「三千字」「五千字」のような辞書、さまざまなベトナムの歴史書である。

韻を踏む詩で書かれた多くの基本的なテキストがあり、通常は $\text{5a11}$ 文字の詩行または「六八体」(複数の詩のペア(前文が6字と後文が8字)から構成される詩体)と「六八」韻律の歌で構成されている。「三字経」のような普通に使われている辞書でさえ韻を踏む詩で編纂されていた。その理由は韻律の詩は暗記しやすく、初等教育に適していたためである。したがって韻を踏む詩はまた、ベトナムの儒教の初等教育書の重要な特徴でもある。

## 初級教科書におけるバイリンガル教授法とバイスクリプトの教授法

2010年に掲載された論文で、「四書約解」(四書の通訳の簡易版)の再印刷のために書かれた、黎貴惇(ル・クイ・ドン)(1726-1794)の序文を分析すると、次のようなことが言える。伝統的な文学教育の観点から見て、「バイリンガル(ベトナム語の文言)」と「バイスクリプト」(中国文字とベトナム語の原典)の両方を使うと、ル・クイ・ドンが「四書約解」を使うことを奨励したことは、小学校レベルで儒教の教育方法を表現することであった。さらにこの教育政策はル・クイ・ドンの政策だけではなく、多くの伝統的なベトナムの儒教の話言葉では表されない代表的な見解だった。もちろん我々はまだル・クイ・ドンの見解がどのくらい他の伝統的なベトナムの儒教者のものであったかについて議論しなければならない。この問題はその短い論文の範囲を超えた幅広い原典を分析することで解決できる。

前述の論文を發表した後、その論文で述べたように、「幅広い原典を分析する」ための研究を続けた。以下はその研究の最近の結果である。

ベトナムの「三字経」に関しては、この論文の著者が發表した研究では、「三字経解音演歌」(AB.304, R.653, VNb.1, VNv.185, VNv.225)、「三字経六八演音」(R.129)、「三字解音」(AB.474)、「三字経演音」(R.2042)、「三字経釋義」(慶應義塾大学)と他の「三字経釋義」(慶應義塾大学)を含む「三字経」の6つの翻訳があることを示している。

翻訳には2つの方法が採用され、1つは散文訳で、もう1つは「*etc* Bai 韻律」への散文翻訳である。各行を散文に翻訳することは、文字通

り元のそれぞれの漢字を翻訳することによって行われるので、翻訳は本質的にそれぞれの活字を理解するための比較表になる6〜8の韻律の詩に翻訳することは、ベトナム語で「三字経」の内容を暗記するの役に立ってきた。ミン・ダオ・ジア・ファンに関しては、本論文の著者が發表した研究によると、5つの現存版があり、そのうちの2つは R.1555 と AC.228 がベトナム翻訳であり、その中には中国語とベトナム語の両方を含むローマ字を含んだ翻訳がある。

書名「幼學五言詩」「初學問津」「一千字」「三千字」「五千字」について言えば、これらのテキストのすべてに中国語のテキストに加えて、ベトナム語の翻訳がある。

予備的な統計によると、儒教のテキストの30の現存している翻訳の中で、これらのうち16はリズムのある韻文で、「六八」にあったり、「六八」韻律の歌で韻を踏んでおり、これらの2つの特徴的なベトナム語の韻律である。これはまた、そのジャンルの分野でこれらの儒教のテキストを文化的な特定の場所に集中させる証拠でもある。韻を踏む詩への翻訳は、古典文学の意味の浸透につながる。

上記の証拠のおかげで、ベトナムの小学生が中国語を死語、外国語として学ぶこと、さらには中国語の漢字を母語で書くためには使わず、字を書くためのシステムとして、中国語を学ばなければならないのは難しかったと想像できる。それゆえ教える過程で、これらの教育機関は、私が暫定的に「バイリンガル/バイスクリプト」教育と呼んでいるこれらの困難を解決する方法を作り出して運用することに対して自らの責任を取った。バイリンガルとは文学的な中国語とベトナム語を

同時に使用することである。バイスクリプトとは、中国語とベトナム語のスク립トの両方を使用することを指す。先に引用した2010年の論文では、「多くの伝統的なベトナムの儒教の暗黙の見解を表している可能性が非常に高い」というフレーズの中に、「私は非常に可能性が高い」という言葉をイタリック体で入れておいた。さてこの新しい論文では、過去8年間に収集され、分析された原典と証拠において、バイリンガルとバイスクリプトの方針は多くの異なった初等教育の原典の中で表現されているような伝統的なベトナム儒教に対する一般的な見解であったことを断言することができる。

## 7. 結論

本論文はベトナムの科挙 (1075-1919) の準備に直接関与した著者からの文面による証言の観点から、そのトピックスを扱っている。これには純粹に伝統的な公務員試験を追求した学者、すなわち科挙の経験を持つが、時代と環境の変化のために、そしてちに現代フランス教育に移行した半近代学者の両方が含まれる。本稿ではこれら2つのグループの記録をもとに、ベトナムの儒教教育で用いられる基本テキストの基本システム、すなわち13歳から15歳とそれ以下の学生を指導する基本的なカリキュラムを再構築する。5歳から9歳まで若い学生は「三字経」「幼学五言詩」「初学問津」「明新宝鑑」「明道家訓」「孝経」「忠経」「啟童説約」と「朱子家政」などのテキストから始めた。そしてこの期間に彼らは詩と並立の2行連句を書く練習を始めた。10歳から12歳の生徒は「幼學漢字新書」「國語字類」と「陳文通考」を学習

する。13歳から15歳の学生は「四書」とベトナムの歴史の要約を学ぶ。この教育プロセス全体を通して、学生は「一千字」「三千字」「五千字」などの辞書を参照にすることができる。このシステムで利用されるテキストの半分は中国の著作であり、中国や他の東アジア諸国で一般的に使用されている。残りの半分はベトナムの著者のテキストだった。暗記を支援するために若い聴衆 (日本の読者) を念頭に置いて、これらのテキストの多くは韻を踏む詩で構成された。実質的にこれらすべてのテキストをベトナム語に翻訳することは「バイリンガル (ベトナム語の文言) と「バイスクリプト」 (ベトナム語のスク립ト) 教育が過去にベトナムの教育で一般的に利用されたことを示す証拠である。

ハノイ 2018-2019

### 注

- (1) Nguyễn Tuấn Cường, "The Reconstruction and Translation of China's Confucian Primary Textbooks in Vietnam: A Case Study of the *Pentasyllabic Poetry for Primary Learning* (幼學五言詩)" paper for International Conference "Reconsidering the Sinosphere: A Critical Analysis of the Literary *Sinhe in East Asian Cultures*," held in Rice University, Houston, Texas, USA, March 29 - April 1, 2017.

(ベトナム・越南社会科学翰林院漢喃研究院教授)